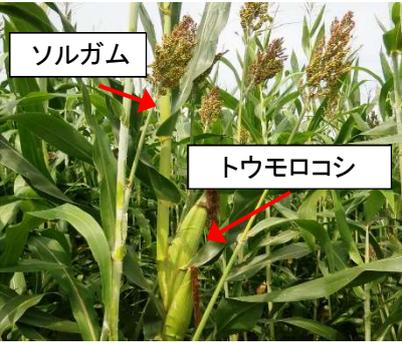


5 畜 産

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 飼料作物の 収穫</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○飼料作物の収穫</li> <li>○豚の家畜伝染病防疫対策</li> </ul> <p>暖かい空気に覆われやすいため、向こう1ヶ月の気温は高いと予想されているので、引き続き暑さ対策には気を付ける。</p> <p>8月は飼料作物の収穫時期であるが、台風の接近数や上陸数が年間で一番多い月であり、台風は不規則な経路をとることが多いため台風情報には注意する。また、強風により飼料作物が倒伏すると収穫時に泥が混入し、サイレージの品質が低下するため、風雨の影響が予測される場合には早めに収穫する。なおこの時期の収穫作業は熱中症予防に留意し、作業時は帽子の着用や通気性の良い服装を心がけるとともに、こまめな休憩と水分補給を行う。</p> <p>ア トウモロコシ</p> <p>(ア) 飼料用トウモロコシの収穫適期の判定方法</p> <p>サイレージの乳酸発酵に必要な水分含量(65~70%)であり、糖含量が高い黄熟期を目安に収穫する。</p> <p>黄熟期の判定は、雌穂中央部を折り、断面を見て粒の硬い部分と柔らかい部分の境界(ミルクライン)の位置で判定する。なお、写真1の赤い点線がミルクラインで、収穫適期である。</p> <p>硬化した黄色い部分が全体の30%程度であれば糊熟期段階であり、40~50%のところまで達していれば黄熟期である(写真1)。刈り遅れは収量低下や消化性の低下(栄養価減少)につながるため、ミルクラインが40%に達した時に収穫を開始し、50%になる頃までに収穫を終えるようにする。</p> <p>(イ) 飼料用トウモロコシサイレージの収穫調製方法</p> <p>切断長の目安を1cm程度とすることで、サイレージ密度が高まり発酵品質は向上する。</p>



写真1 収穫適期の雌穂の断面(ミルクラインの位置は約40%)

	作 業 内 容
<p>(2) 豚の家畜 伝染病防疫 対策</p>	<p>イ ソルガム</p> <p>収穫適期は、糖含量が高い乳熟期から糊熟期（概ね出穂後2～3週間）、トウモロコシと混播（写真2）した場合は、トウモロコシの黄熟期が適期となる。刈り取りはソルガムの再生を促すため、地上10～15cmを目安に高刈りする。収穫後は、窒素、カリを、10a当たり各10kg施肥し、再生芽が出始めた頃に各5kg程度を追肥する。</p>  <p>写真2 トウモロコシとソルガムの混播</p> <p>令和6年7月1日、県内で捕獲された野生いのししにおいて豚熱陽性が確認され、本県は全国で37番目の陽性県となった。7月19日は2例目の野生いのしし感染事例が確認されるなど、県内全ての養豚農場では豚の異常は確認されていないものの、農場内への侵入リスクは極めて高い状況になっている。このため、養豚関係者は以下の項目の再確認・徹底に努める。特に下線部については、梅雨時の被害が発生していないか十分に確認が必要である。また、飼養衛生管理者は農場周囲の環境中に豚熱ウイルスが存在することを意識して、これまで以上に飼養衛生管理基準を点検し、従事者には飼養衛生管理マニュアルの遵守を徹底させる。異常が認められた場合には、直ちに家畜保健衛生所に通報する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 衛生管理区域及び畜舎への出入り時の消毒の徹底</li> <li>② 衛生管理区域及び畜舎ごとに専用の靴及び衣服の着用</li> <li>③ 衛生管理区域の出入り時の車両消毒、車内との交差汚染防止</li> <li>④ 衛生管理区域への<u>野生動物の侵入防止（柵の再点検）</u></li> <li>⑤ 野生動物侵入防止のための<u>防鳥ネット等の設置と点検、破損箇所の修繕</u></li> <li>⑥ 持ち込む資材の消毒</li> </ol>

(作成 畜産研究センター)